

情景がよく分かる句

「母と子のキャッチボールや風光る」の句、母と子のほほえましい情景が浮かんできます。季語の「風光る」によって、いっそう句の内容にふくらみが見えるようになりました。

次回例会

四月十八日（火）午後一時三十分 県活センター
兼題 「花疲れ」

初雀 梅田ひろし

遠足の子らポニーへと走り寄る
春一番鶏鳴天に響かざる
大寺のぴたりと閉ざす春障子

梅田ひろし選

特選

明け切らぬ空の蒼さや冴返る
母と子のキャッチボールや風光る
外階段下りる靴音冴返る
猫のため入れし切れ込み春障子
やんはりとうれる曙光や春障子
卵黄のごとき春日の沈みゆく
ミシン踏み手元明るき春障子
春障子墨絵のごとく小枝ゆれ
入選

春障子明るき未来透きてをり
目を細め媼見つめる福寿草
笑ひては尽きぬおしやべり春障子
点々と火を落としては畦を焼く
病窓の春富士快癒祈りけり
春障子猫がくつろぎつつ眠り
立春やエイサーの輪に引き込まれ
七つ八つ垣根を越えて夏みかん
風の音水の音聞き春を待つ
露のたう根っこの先に見えはじめ
隣人の退院羨む春日和

久保田圭子

高橋幸子

久保田圭子

市川三重子

新井真弓

新井真弓

高橋幸子

大森 勇

野良テル

新井真弓

鈴木清子

大森 勇

野良テル

滝澤正高

葛川忠義

大森 勇

山田泰子

鈴木清子

野良テル

天も地も黄砂の色に染まりけり

咲き満ちて世界らん展きらびやか

くしやみして風邪か花粉かとまどふも

きさらぎの部屋の奥まで日の入り

一輪挿しの一重椿の凛とせる

春障子棧に残れるうすぼこり

庭に来る鳥かしましき春障子

半時の坐禅にしびれ春障子

主のなき座椅子の窪み春闌ける

薄氷のひかりしず閑けき明治宮

稀勢の里福を呼びては豆を撒く

市川三重子

滝澤正高

鈴木清子

高橋幸子

市川三重子

山田泰子

久保田圭子

葛川忠義

山田泰子

葛川忠義

滝澤正高

